



『降った日・晴れた日?!』

(隣国への旅) 林 保明



この冬のピョンチャン五輪以降の朝鮮半島情勢から考えて、『今年の夏は平壤で冷麺を食べながらの暑気払い?』という淡い期待を抱いていたのですが、トランプ氏の一言でダメになって…と思ったけれど、それでも情勢は刻々と変わり、そして今日は米朝会談の日、具体的な進歩は無かったにしろこれから先、果たしてどうなっていくのか楽しみです…?

まあトランプ氏もツイッターをやるくらいなのだから、民間人を見習って肩肘張らず、もっと気楽な友達付き合いから始めれば良いのでは無いでしょうか?



朝鮮戦争が始まった1950年6月25日、その日付をなぜか僕は良く覚えています。生まれるちょっと前の事で、その戦争は70年近く経ってもまだ終わっていないのです。

40歳を過ぎた頃、たまたま行ったソウルでの仕事がきっかけで韓国にはまり、ハングル（韓国・朝鮮語）を学び始め韓国の文化に触れました。面白くなって都合30回以上、韓国の田舎までバスに乗って旅をしました。ソウル・カンヌン（江陵）・テベク（太白）…、南はプサン（釜山）・モッポ（木浦）・ヨス（麗水）、多くの街を旅し何人かの新しい友達もできました。





韓国の大衆文化に触れようと、映画もたくさん見ました。日本でも話題になった「シュリ」はソウルの劇場で見ました。映画館の前にはスルメを売る屋台があったけど今も同じでしょうか？

今回表紙に使ったパンムンジャン（板門店）の写真はヤンスリ（両水里）にある「ソウル総合撮影所」で撮ったものです。



ハリウッド劇場（ソウル）



ドラマ「砂時計」の撮影地で有名になったチョンドンジン（正東津）





写真リスト1

1～5. 2003.1.19 「ソウル総合撮影所」ヤンスリ (両水里)

6、7. 2002.5.5 カンヌン (江陵)

8. 1999.5.2 サマイルノ (三一路) ソウル

9、10. 2002.5.5 チョンドンジン (正東津)

11. 2002.5.5 テベク (太白)

雨の日・晴れの日・雪の日…、反日感情の強い土地では日本人だと分かって食堂を迫出されたり、その逆に撮った写真を持って行って昼食をご馳走になったこともあります。

バスの中での若者との会話、田舎の食堂での何気ないやりとり…そういう時間をかけずに、人間なんて理解できはしないと思うのです。否、そういう時間をかけたところで理解など難しいし、信頼感なくて平和なんか訪れはしないと思うのです。

政治家がカメラの前で条約をかわし、したり顔でコメントしたところで、何が変わると言うのでしょうか?、それは日韓関係の長い歴史を見れば良くわかる事だと思います。



2001年の1月7日、低気圧の通過で荒れた玄界灘を、ようやくと乗り超えて着いたプサン(釜山)港の入り口です。

この後も波が高く、日韓共同切符を使った時間を決められた旅なのに、下関からのフェリーは接岸できずに30分ほど棧橋近くを廻っていました。やっと上陸しても日曜日でタクシーが来ません。仕方なく雨の中を地下鉄中央洞まで歩き、釜山駅から接続列車セマウル号で韓国5番目の都市、交通の要所でもあるテジョン(大田)に向かったのです。

プサン駅を出るとすぐに雨は雪に変わり、途中の並走する道路でも車が数珠つなぎ…、結局目的地のプヨ（扶余）には行かず仕舞い、テジョンのホテルに閉じ込められてしまいました。



食事に行った食堂からの帰り道、小さな飲み屋からカラオケでしょうか？耳に馴染んだメロディが聞こえて来ました。『釜山港へ帰れ!』（1972）

「コッピイ〜ヌン〜 トンベクソメ〜 ポ〜ミ ワ〜ッコンマン〜…」と言う歌い出しで、日本語に訳すと「花咲く椿の島に、春は来たけれど、兄が去った釜山港には、カモメが悲しく泣くだけ…」と言う兄弟の別れを描いた歌なのです。

大陸続きの朝鮮半島では、日本を始め外国からの侵略や、朝鮮戦争などで家族が別れ別れになることが多かったのでしょうか、40年以上前のその当時は、別れと言うと男女の別れでは無く、家族の別離を思い浮かべたのです。

サビの部分、「オリュクト〜 トラガヌン〜 ヨルラクソンマダ〜…」（五六島を回って行く連絡船ごとに…）と言う歌詞を見ると、この歌の兄は、日本に行ったような気がしてなりません。

歌と言えば、最近ではK-POPと言うジャンルもできて韓国人の人気歌手が日本でも持ち囃されてきました。親しい友達に誘われてコンサートにも行ったことがあります。

韓国人は歌のうまい人が多く、日本の若い歌手のメロディにはついて行けなくとも、旋律のきれいなK-POPには心を打たれることがあります。



考えてみると韓国語を学び始めての10年間くらいは、日本語で覚えた歌はほとんど無く、韓国語で覚えた歌ばかりです。心に染み入る歌は韓国の歌でした。メロディも歌詞も抵抗無く入って来る歌が多いのはなぜでしょうか？



クリスマスコンサートの後、雪のちらつくソウルの街を歩き回った青春の日々?!





独立記念館で出会ったIさん (チョナン)

写真リスト2

12. 2001.1.7 プサン (釜山)
13. 2001.1.7 テジョン (大田)
14. 2006.12.24 ワンシムニ (往十里) ソウル
- 15、16. 2006.12.24シーチョン (市庁) ソウル
17. 1998.8.25 チョナン (天安)
18. 1998.8.28サムガッチ (三角地) ソウル
19. 2006.8.24 チョンゲチョン (清溪川) ソウル
20. 1998.8.23 プサン (釜山)
21. 2003.1.19「ソウル総合撮影所」ヤンスリ (両水里)



戦争記念館のパレード終了後 (ソウル)



『メランコリア』(2000年の写真展より)

韓国への初めての一人旅は、1992年の8月だった。夏休み真っ盛りの週末で、成田空港もソウルの金浦空港も、旅行客でごった返していたのを覚えている。海外旅行3回目の僕は、入国手続きの列の長い方に並んでしまい、空港を出たのは着いてから40分以上も過ぎてからだった。一人旅と言っても行き帰りだけはツアーとなっていたのだが、何故か参加者は一人だけで、空港の出口では旅行会社から派遣された女性が、夏の日差しさながらに、じりじりしながら僕を待っていた。

おずおずと近づいて行くと、開口一番「何をやっていましたか!?」、「ちよっ…、ちよっと手間取って…」、「時間がないのですよ!、もう…!」、僕の荷物を奪い取るやいなや、タクシー乗り場の方へどんと歩いて行ってしまった。「(まずいなあ…)」その剣幕に押され、僕はただ、のこのこと後を着いて行くほかなかった。

タクシーが動き出し、道路もさほど混んでないことが分かると、Yさんという若い女性の表情が少し和らいで来た。これで少しは取り付く島が出来たと思い、「チョヌン ハングンマルル コンブハゴ イッスムニダ。(僕は韓国語を勉強しています)」と話しかけてみる。すると怪訝そうに、「いつからですか?」、と言う質問が帰ってきた。僕は心の中で「シメシメ」と思い、「この4月からです!」、「じゃあ、あの文字は何と読みますか?」、といきなり前から来るバスの行先表示を指さした。「(エッ!)…、キンポコンガン(金浦空港)」、「あれは?」、「クンミンウネン(国民銀行)」、次から次と目に付く看板を指さしてくる。

僕は必死に看板を読んで行くのだが、只でさえ乱暴な運転のタクシーに揺られた上に、左右に顔を動かしていたせいで、車に酔って来てしまった。「(まいったなあ…)」

そんな事にはいっさいお構い無く、Y女史の攻撃は前にも増して『これでもか!』と続いて来た。「プサンウネン(釜山銀行)」、「あれは、何ですか?」、「トン×コンソル(統×建設)」、「良く出来ました!、でも一つ間違えています!」、「…(一つ位、良いじゃないか!、まったくう~)」

これが本当の「ハンゲル酔い(?)だ!」などと言っている内に、いつしか8年の歳月が過ぎ、「チョヌン ハングンマルル コンブハゴ イッスムニダ。(僕は韓国語を勉強しています)」は、今日もまた進歩無く続いている。





朝鮮半島はこれからどうなって行くのだろうか…？